



各事業所で実施している活動プログラムの目的・具体的内容

児童デイサービス とみぐすく（児童発達支援）

①健康・生活 ②運動・感覚 ③認知・行動 ④言語・コミュニケーション ⑤人間関係・社会性

	項 目	活動プログラムのねらい	具体的な支援内容	5領域の分類
1	運 動 あ そ び、 公 園、体 操 教 室 リ ト ミ ッ ク	・いろいろな体の動きの習得と体幹機能の向上、手順を言葉または視覚で理解する、順番を守る、力の出し入れの仕方について学ぶ。達成感から自信をつける。	・「走る」「ジャンプする」「くぐる」「転がる」「ストップ＆ゴー」「模倣」等多様な動きを遊びの中で経験し、難しい場合は補助を行う。内容を決める際は当日利用児童の年齢や、機能部分を考慮した内容を取り入れる。また、公園遊びでは公共の場でのルールの獲得。社会性を身につけられるように支援する。集団活動に入りづらい児童については職員が付き添い、本児が好きなことも取り入れながら少しずつ輪に入れるように支援していく。	②運動・感覚 ③認知・行動 ④言語・コミュニケーション ⑤人間関係・社会性
2	粘土・スライム あそび、感 触 遊 び	・手の感触を使うことで、脳への良い刺激を与えながら、感覚過敏の軽減を図っていく。さまざまな感覚を体感しながら自分の好きな物を作ること創造性も伸ばしていく。	・水遊び お友達と楽しく水遊びする中で、水への恐怖をなくしていく（顔に水がかかるのが苦手な子、お風呂に入るのが苦手な子）スライム（袋に入れて触れる段階的に触らせていく）粘土（粘土の種類に寄って感触が違うその素材によって児童へのアプローチを変えていく。基本興味を引くように職員から声かけする。（好きなキャラクターを作るなど）、片栗粉（力の入れ方で形状が変わる。力の出し入れも感覚として知ってもらう）、寒天（力の入れ方で崩れる、ももには戻らないこと知る）、どろんこ（畑）足の裏に土が付いたり汚れるとすぐに手を洗いたい声かけでここまでやってから手洗うよなど、虫を遠くから、またはかごの中にいるのを見る。初めは職員が触っているのを見せてどんな物が経験してもらう。自分で触れるようになるまで無理に触らせない。危険な虫がいること、口に入れてはいけないことも教える。	③認知・行動 ④言語・コミュニケーション
3	知 育 玩 具 フ リ ン ト 学 習 i P a d 学 習	・座って集中する、個々に合わせた（鉛筆を持つ練習する子、スプーンで物をすくう練習など）内容で学習を行う。できるようになる事で自信に繋げる（できることを増やす）	・個々の発達段階に合わせた知育を準備し取り組む。（形合わせ、マッチング、シール貼り、なぐり書き、運筆、スプーン、お箸練習、指先つまみ、絵カード、カルタなど）また、iPad を使用し非言語コミュニケーションの習得に向けた取り組み方を視野に入れてアプリなども利用し取り組む。	③認知・行動 ④言語・コミュニケーション ⑤人間関係・社会性
4	しゃぼん玉、風船、 歯 磨 き、お や つ	・口腔内の動きの強化	・しゃぼん玉吹く（ストロー）振る（手持、輪の中に吹く）、風船太めのストローを付けてふくらます、歯の磨き方指導（鏡をみながら自分の口の中を見て磨く、うがいの仕方。ふくぶく、ゴロゴロなど）、おやつ（チューチュー噛み方吸い方、ふくらますかための物、芋などの口の中にまとわりつくもの）支援しながら口の動きの観察と声かけ。状況に合わせて言語聴覚士へ助言を仰ぎ個々に合わせた支援も行う。	①健康・生活 ②運動・感覚 ③認知・行動 ④言語・コミュニケーション
5	図 書 館 読 み 聞 か せ	・本を身近に感じ、たくさんの本と出会う。公共の施設でのマナーを身につける。読み聞かせをすることで座って集中する力と道徳、創造性を養いなう。	・ルールを先に説明し、その場にあった正しい過ごし方が出来るよう声かけする。楽しく本に関われるよう読み聞かせを行う。本の内容は、児童間の関わりの中や成長発達段階で必要とされる内容の物や季節感のある物も取り入れる。	①健康・生活 ③認知・行動 ④言語・コミュニケーション ⑤人間関係・社会性
6	海岸ウォーキング 近 隣 散 策	・体力を身につける。海や草、花、鳥など景色や発見を楽しむ。また、危険な場所や安全に散策することについて身につける	・公道では手つなぎ歩くことができるようになる。（急に走りださない。）歩きながら景色をみて会話を楽しむ。危険な箇所、場面がある場合は何が危険なのかも目で見て分かりやすく説明し危険回避を習得できるように支援する。	②運動・感覚 ③認知・行動 ⑤人間関係・社会性
7	制 作	・のり、ハサミ、模写、創造性、貼り付け、デザインバランス、季節感覚、行事の意味などを知る。	・見本を見せて何を作るか説明する。飽きのない内容の制作を提供していくようにする。家族が本人を褒めてあげる機会を作る。ハサミなど危険な物を扱う場合は本人のできるところを確認しながら手を添えて支援する。また、物の見え方についてもきちんと見ることでできているか確認する。（弱視、斜視など）指先を使った作業では利き手をみつけ、指先、手首の使い方の指導、集中力（座る時間が長くなるなど）をもてるように支援していく。。	②運動・感覚 ③認知・行動 ④言語・コミュニケーション
8	お や つ 作 り・ 買 い 物 支 援	・食に関心を持ち、食材、調理課程に興味を持つ。 ・食べ物の名前や食物の名前を覚える。苦手な物が減る。	・作る物の食材を買ったり、買った食材をどのように使うのかを体験しながら、食に興味を持ってもらえるように支援する。また苦手な物でも自分で作ることで興味を示せるように支援する。また食べ物が体の元気な源になっていることを知ったり意識できるように支援する。買い物支援では好きなおやつを制限された金額内で買う。買える物と買えない物があることも知って範囲内で買う。お金のやり取り。	①健康・生活 ③認知・行動 ④言語・コミュニケーション
9	自 由 遊 び	・1人遊びからお友達と関わる遊びへの発展の仕方、声かけ、遊びの種類	・各々の好きな遊び、やりたい遊びを言葉やクレヨン動作などで伝えてもらう。1人で遊びたい人もいるが、みんなで遊びたい人もいる中、おもちゃの貸し借り（お友達との遊びのルール）についてもタイマーで交代することで自分1人で使える満足感と、お友達と話し合って時間を決めて譲り合えること知ってもらう。また言葉での遊びの誘い方、相手の表情を見て一緒に遊んでくれるのか？くれないのか？などお友達との関わり方のやり取りの仕方を職員が間に入って支援する。おもちゃを通して遊びの発展があることを知ってもらうために職員が違う角度から遊びの提案をしたり、1人遊びしている子の目の前で他の子達が凄く楽しく遊んでいて、一緒に遊びたい気持ちになる場を作ることで周りに関心がない児童についても周りを見る力を身にけ、集団に入る入口作りをする。	②運動・感覚 ③認知・行動 ④言語・コミュニケーション ⑤人間関係・社会性
10	身 辺 自 立	・トイレ。着脱、片づけ、食器具の使い方などの習得	・定時トイレ誘導（オムツからパンツへ）、外からデイルームに入る時の手洗い、食後のほみがき、食器具の使い方、食べ方、衣類の交換（カバンからの出し入れ服を選ぶ等含む）、水分補給の仕方（熱中症対策含む）	①健康・生活
11	朝の会・帰りの会 当 番、発 表	・言葉で伝えることの練習、自分なりの伝え方で相手に理解してもらう、発表の場でどこまで言葉の成長があるか確認し次のアプローチに結びつける	・ランダムに当番を毎日日替わりで決める。当番は活動の挨拶、朝の会や帰りの会の司会をする。お友達の名前を読んだり、職員の名前も呼ぶ。呼べない子は職員と一緒に付き添い、職員が〇〇さんはどこと言った時に当番さんが手をタッチしにいくにしている。（名前との児童の合致理解）朝の会や帰りの会では発表する機会を設ける。朝ごはん何を食べたかを話したり、自分の好きな事を発表しても良い。内容を聞きながら、本人の言葉を周りがきちんと聞いているという事を知ってもらう。分かりづらい発音は職員が反復したりして周りの人が聞きやすくなるように支援したり、本人にも言葉の言い回しの仕方の支援に繋げている。発表の仕方を見て言葉の発達成長の確認もする。	③認知・行動 ④言語・コミュニケーション ⑤人間関係・社会性
12	夏祭り、クリスマス会 などのイベント等	・親子参加することで、子供の成長の確認の場を提供したり、デイで行っている支援の仕方を間近で見たり、聞いたりすることで自宅での支援の仕方とすり合わせを行い協同支援につなげる。また、父母、親子間交流を図り、家族の横の繋がりと児童の社会性を伸ばす。色々な活動、方法で発散することができることを知り情緒の安定を図れるようにする。児童・家族・職員信頼関係を築く	・夏祭り、クリスマス会、ゆんたく会などの家族交流の場を提供する。場所や、内容については、家族も来所することもあり、人数を把握しながら環境を整える。同じ領域で悩んでいる家庭同士の橋渡しをし、問題解決へつなげる。親子で楽しく参加できる内容を検討。ゆんたく会では、実際に困っていることを題材にしたり、経験したことを話す場を提供することで支援の着目が広がるように支援する。色々な活動イベント実施。工夫をすることで、楽しみ、気持ちを落ち着かせる方法を身につけられるように取り組む。（頑張ったらお楽しみ会がある・みんなの前で褒めてもらえる、みんなで取り組む達成感等々）	
13	地 域 交 流 (学童交流・児童館交流等)	・近隣の学童との交流イベントの実施や近隣の児童館を利用し地域交流の機会を図ったり、社会科見学をすることで色々な社会資源を知る。地域や社会との繋がりを広げる。	・ハロウィンや地域のイベントなどの情報収集しながら本児が楽しく、安全に参加できそうな催しがある場合は活動に取り入れて参加する地域でどのようなことが行われているかを知ったり、公共の場でのルールを知る機会を作る。また、地域交流や社会科見学することで地域の方達に障がいのある児童のことをもっと知ってもらう機会になるように支援する。	